

表 2.8 クラック調査カルテ(クラック 13BL-1 その2)

水押し試験結果		ボーリング調査結果																					
水押しパターン		【平面配置】																					
手前	中央	【密着層】	【打継面の性状】																				
<p>横縦例 (J12+1.0)</p>	<p>中央 (J12+3.0)</p>																						
<p>アウツ センサ (J12+7.2)</p>	<p>調査孔</p>																						
<p>凡例: ■→充水箇所 ■→セッカ一設置箇所 →継目排水孔の漏水確認 ■→漏水確認箇所</p>																							
ボアホール観察結果		ボアホールカメラ観察結果																					
クラック幅の計測		クラック幅と漏水経路の推定																					
		<p>調査箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> クラック区分①に相当し、打継間隔 325 日と最も長く、クラック幅 0.5mm のクラックである。 塩ビの水平止水板が 1 列設置されている。 クラック幅は 0.5mm、クラック長は 15m であった。 	<p>上流面調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> クラックは表面部で確認したとおり、J12+1.87m 付近より上方へ逃げているため追加孔 (④、⑤) で調査実施したが、クラックは複雑な分布しておりクラックの範囲を完全に把握できなかった。 しかし、②、③孔の調査結果より、クラックの範囲は 3m 以上と深いものと推定されるが、区分 C の範囲は表面部 45cm 程度の範囲と推定され、止水板より手前である。 クラックの範囲は、②孔から止水板の奥まで達している。 水押し試験結果より、いずれも止水板手前に充水したケースでは、継目排水孔からの漏水は認められなかった。しかし、継目水試験では漏水が認められた箇所であることから、試験の注入圧などの違いにより、結果が異なったと思われる。 また、水押し試験で止水板裏に充水したケースで J12、J13 のいずれにおいても漏水が認められていること、ボーリング調査からクラックは複雑な分布をしており、止水板を回り込むようなことも考えられるため、水平打継面のクラックと横継目から止水板に沿う 2 つの漏水経路が考えられる。 																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th colspan="2">ボアホール観察結果 (クラック幅 0.5mm 以上の範囲)</th> </tr> <tr> <th>右岸側</th> <th>左岸側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13BL-1</td> <td>①</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>0.40</td> <td>0.30</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>無</td> <td>0.30</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>0.40</td> <td>0.30</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>0.10</td> <td>0.10</td> </tr> </tbody> </table>		No.	ボアホール観察結果 (クラック幅 0.5mm 以上の範囲)		右岸側	左岸側	13BL-1	①	-	②	0.40	0.30	③	無	0.30	④	0.40	0.30	⑤	0.10	0.10	<p>調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> クラック幅 0.5mm 以上の範囲 	<p>漏水経路の推定</p>
No.	ボアホール観察結果 (クラック幅 0.5mm 以上の範囲)																						
	右岸側	左岸側																					
13BL-1	①	-																					
②	0.40	0.30																					
③	無	0.30																					
④	0.40	0.30																					
⑤	0.10	0.10																					